

蓄電池研究所、 豊田理化学研究所の設置

豊田喜一郎は、1930年に亡くなった父 佐吉の遺志を引き継いで、蓄電池の研究開発を推進しました。

1939年には東京芝浦研究所の跡に蓄電池研究所を設置し、電気自動車用蓄電池の研究に着手しました。蓄電池研究所では、抜山大三博士、知久健夫氏、木下恭二氏の共同発明になる「鉛蓄電池」の特許権を帝国発明協会から譲り受け、それを利用して東京芝浦工場で電気自動車用蓄電池の製作を進めました。蓄電池研究所の研究活動は、豊田理化学研究所に引き継がれ、研究・製作の両面から電気自動車用蓄電池の性能向上を目指すことになりました。

1940年には蓄電池研究所が利用していた3階建て建物と付属設備一式を提供し、財団法人豊田理化学研究所を設立しました。豊田理化学研究所の設立趣旨は、わが国独自の科学技術の振興開発を図り、学術・産業の発展に貢献することにあります。この研

究所では、ロッシェル塩の大型結晶の製法、蓄電池や方向探知機の開発をはじめ、多くの研究業績をあげ、それらの一部は特許取得・製品化に至りました。しかし、戦後のインフレーションのため、独自の研究活動は縮小を余儀なくされました。

喜一郎は、実際技術(実技)と学術的研究が密接にかかわりあって、技術が進歩していくと考えていました。この思想は継承され、株式会社豊田中央研究所(1960年)などの創設につながりました。



豊田喜一郎



設立当時(1960年)の
豊田中央研究所



芝浦研究所
(後の豊田理化学研究所)

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <http://www.tcmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.